

驚くことに年末から年始にかけて 26 機の衛星が SpaceX 社の「ファルコン 9」ロケットで打ち上げられた。

まず、12月29日に米 Anuvu 社の「NuView Alpha」「NuView Bravo」、フィリピン Orbits Satellite 社の「Agila」、メキシコ Apco Networks 社の「UtilitySat」の 4 機が同時に打ち上げられた。いずれも米 Astranis Space Technologies 社が製作した小型 GEO 衛星である。「NuView Alpha/Bravo」は、北米とカリブ海をカバーする移動体通信に特化した衛星で、50Gbps の通信能力を有する。衛星の才数については、1 x 1 x 1 メートル、質量については、400kg 以下と公表している。

Ku バンド中継器を搭載した「Agila」衛星も 400kg クラスの衛星で、運用はマニラ市郊外の Subic Bay で行われる。Orbits 社は、もう一機打ち上げると強気に出ているが、これら 2 機の静止軌道がどこなのか、いろいろと調べてみたがはっきりしないのが気がかりだ。

次いで、12月31日に SpaceX 社の「Starlink」衛星が 21 機投入された。同社によればこの内の 13 機は、衛星とスマホ間での直接通信を実現するバージョンという。SpaceX 社の新年の打ち上げは、1月6日から始まっており、勢いがとどまりそうもない。

さらに、1月3日に大型 GEO 衛星「Thuraya-4 NGS (Next Generation System)」の打ち上げが成功裏に行われた。この衛星のオーナーである Thuraya 社は、Al Yah Satellite 社と Bayanat 社が昨年 10 月に合併してできた Space42 社の子会社で、アラブ首長国連邦に本社を構えている。運用しているのは、2001 年に打ち上げた「Thuraya-1」(東経 98.5 度)、2003 年に投入された「Thuraya-2」(東経 44 度)、2008 年に打ち上げた「Thuraya-3」(東経 98.5 度)で、1 号、2 号、

3 号はボーイング製。今回打ち上がった 4 号はエアバス製である。最新の「Thuraya-4 NGS」衛星には、直径 12 メートルのアンテナが搭載されており、L バンドでモバイル衛星通信サービスを提供する。カバレッジは、中東、アフリカ、中央アジア、ヨーロッパに及ぶ。メーカーのエアバス社によれば、「Thuraya-4NGS」は、同社の「Eurostar NEO」プラットフォームを使用して製作され、「Dynamic Power Allocation が可能な 3200 チャンネルのルーティング機能を搭載している」という。

元旦の日刊紙

宇宙と衛星の記事を探す目的で、元旦の日刊紙(朝日新聞、日本経済新聞、読売新聞、産経新聞、毎日新聞)すべてに目を通した。最も力が入っていたのは「朝日新聞」の「宇宙∞東京」で、その第一回では宇宙飛行士の米田あゆさんとの対談記事を書いた。この対談で米田さんは、「月で私たちは何ができるか」という問いに「地政学的な観点から月震のメカニズムの解析」と「月という空気がない環境での望遠鏡による天体観測」を挙げていた。

日本経済新聞も「月に住む時代、足場を築く年」という見出しで「次世代大型ロケットの開発」「米中の月面開発レース」「2050 年に 100 人が月面に滞在」などの話題を取り上げた。注目の日本の貢献という観点からは、iSpace 社の「HAKUTO-R」と名付けられた月着陸船とトヨタ自動車の月面探査車が写真入りで紹介されていた。

読売新聞では、衛星放送チャンネルの一面広告が目についたが、宇宙や衛星ビジネスに関する記事は見当たらなかった。産経新聞も毎日新聞も同様であった。

ちなみに朝日新聞は、元旦の後 3 日から 10 日までシリーズで宇宙に関する色々なテーマなどを取り上げた。中でもソニーが

開発した「EYE 衛星」、宇宙ベンチャーのスペースワン社の「KAIROS」ロケット、ダイヤモンドが製作した月面探査車「YAOKI」、宇宙に浮遊するゴミの除去にチャレンジするアストロスケール社の記事が興味を引いた。

ジャパネットブロードキャストが「BS10」をリニューアル

新年早々の 1 月 10 日にジャパネットホールディングス(本社：長崎県佐世保市)のグループ会社で「BS Japanext」(263channel)を運用していたジャパネットブロードキャスト(本社：東京都中央区)がチャンネルポジションを変更し、チャンネル名を「BS Japanext」から「BS10」にリニューアルした。この結果、衛星放送史上初となる同じ「10」ボタンポジションで無料放送の「BS10」と有料放送の「BS10 スターチャンネル」のハイブリッド視聴が可能になった。これを機会に、「BS10」チャンネルの PR 大使にサンリオの「ポチャッコ(POCHACCO)」が就任し、チャンネルロゴも変更された。

「CES 2025」が開催

全米民生技術協会が主催する「CES 2025」が、1 月 7 日から 10 日までラスベガスコンベンションセンターで開催された。2025 年を彩る最先端技術として、予想通りオープン AI の「Chat GPT」やメタの「Llama」などの生成 AI が注目を集めたが、相変わらず家電製品の展覧も見受けられた。

日本からは、パナソニックホールディングスの子会社が、最新のテレビを出展した。「物と心が共に豊かな理想の社会(Well into the Future)」をテーマに掲げたブースでは、2025 年度に発売するという有機



EL/Mini LED テレビとお馴染みのデジタルカメラ「LUMIX」が紹介された。同社は、昨年約10年ぶりにアメリカのテレビ事業に再参入しており注目の的になった。この有機EL/Mini LEDテレビは、子会社のパナソニックエンターテインメント&コミュニケーションとアマゾン・ドット・コムと共同開発した新型有機ELモデル(OLED)である。特色は、高画質テレビの視聴に加えて、動画配信サービスのコンテンツをキーワードで検索できる機能を搭載している。

中国を代表して出展したのはハイセンス社で、同社のプレミアムTVがブースを彩った。中でも目立ったのは、116インチTriChroma LED TVだ。特色は、赤緑青の独立したLEDチップと先進のRGBローカル・ディミング・ディスプレイを搭載している。

中国からは、もう一社、TCLが「Inspire Greatness」を旗印に掲げてブースを構えた。紹介されたのは、量子ドットMini LED技術を駆使したテレビが中心であった。なお、TCLは、ナショナルフットボールリーグのオフィシャルTVパートナーになっており米国ではよく知られる。

一方、宇宙関連では、コマツが今回初出展示を果たし、月面という極限環境下に対応する建設機械の実物大モックアップを出展した。同社は、2021年から国土交通省による「宇宙無人建設革新技術開発」の選定を受け月面建設機械の実現を目指しており、機械の軽量化、電動化、自動運転、遠隔操作など多面的な開発に力を注いでいる。

日本衛星放送協会の新年賀詞交歓会

有料・多チャンネル放送の普及促進を目指す日本衛星放送協会(東京・港区赤坂)が主催する「新年賀詞交歓会」が、1月16日に東京・青山の明治記念館で開催された。今回は恒例の年頭記者会見がなく、正午から賀詞交歓パーティ会場に集うことになった。会場には、総務省情報流通行政局の豊島基暢局長、日本ケーブル連盟の今林顕一理事長、スカパーJSAT社の米倉英一社長などが勢ぞろいして会場を盛り上げていた。



写真1 新年初の打ち上げとなった大型GEO衛星は、「Thuraya-4 NGS (Next Generation System)」であった。

冒頭の挨拶に立った滝山正夫日本衛星放送協会会長は、まずAI/Deep Learningに触れ「新技術を積極的に取り入れて、視聴者の満足のいく放送番組を提供できるように努力しよう」と呼びかけた。次いで、総務省の衛星放送のインフラコスト削減に向けた施策を踏まえて「協会としても早期実現に向けて取り組む」と強調した。来賓挨拶に登壇した豊島局長は、「昨年の能登半島地震の発生を契機に衛星通信の災害時における強みが注目された」との認識を示した一方で、「放送を取り巻く環境は、気を抜けない厳しい状況下であり、関係者全員の知恵とアイデアで持続可能なサービスを目指す必要がある」と語った。

今林理事長は、「衛星による災害時の柔軟な対応が評価された。AIについては、放送サービスに実装して使う時代になっている」と強調した。

米倉社長は「世界の政治経済界は、予知不能の時代を迎えている。米国のスターリンクLEOコンステレーションに対し


て欧州がIRIS2プロジェクトで対応する戦術にでた」と切り出し、打ち上げに関しては「ファルコン9にニューグレンロケットが対抗する時代に突入する」と述べ、衛星業界でも予知できない状況下にあると指摘した。さらにこれを踏まえて、「衛星放送業界は、関係者全員がすべての力を結集して今後の成長への道を切り開く努力をしなければならぬ」と気を引き締めていた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
日本衛星ビジネス協会 理事

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION
スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング
<http://www.bizsat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

